

スペシャルオリンピックス(SO)の医療ボランティアに参加して

牧 正明

9月23日・24日の日間にわたって名古屋グランドボウル会場のボランティアに参加しました。

23日 医師と同等の扱いで、案内や説明されました。一般ボランティアと同じ時間に集合したので、ボランティア全員が集められ、説明を受けていましたが、医療ボランティアは関係なかったようでした。一応、アイシング等の確認をして、ある程度の備品の準備をしました。9時前に医師(外科)と看護師が到着。医師が医療箱をチェックし、「富山の薬箱程度のものしかはっていないなあ」とつぶやいていました。その後、「AEDはどこ？」と聞かれて、うっかりAEDの確認を怠っていたことに気づきました。救護室は2F、AEDは1Fと3Fしかないとわかり、すぐに3階からスタッフに持ってきて頂きました。医師と看護師は、中を開け、内容物がちゃんとそろっている事を確認し、電源が入るかも確認していました。初日は、数百人のアスリートと数百人ボランティアがいましたが、救護に訪れる人はなく終了しました。



24日 昨夜、長谷川会長から、瑞穂パロマ会場の援護を依頼され、午前中は、名古屋グランドボウル会場に備品を届け準備し、AEDも3階から持ち込み、昼まで待機しました。医師と看護師は、昨日と違う2人でした。今回も医師(小児科)と看護師はAEDの中の確認を怠る事はありませんでした。昼前に名古屋グランドボウル会場を出る際、会場の担当責任者がエレベータの前まで、付添って丁寧なお礼を言われ、会場を後にしました。昼過ぎに瑞穂パロマ会場に到着。救護室・コンディショニングコーナーを確認し、コンディショニングコーナーで待機し、1人のアスリートのテーピングをしました。尚、名古屋グランドボウル会場は、午後1人アスリートが訪れ、「バンドエイド」「バンドエイド」と連呼するのを見て、医師が3枚ほどのバンドエイドを貼って終わったとの事でした。

瑞穂パロマ会場のコンディショニングコーナーは、名古屋グランドボウル会場の救護室と同じ医療箱と簡易ベッド2台でした。最後の表彰式も終わり、アスリートの送迎バスが待機している中、医師、看護師、愛知県鍼灸師会の全員が帰りましたが、名古屋グランドボウル会場の備品を帰り道だからと瑞穂パロマ会場まで岩井先生が持ってきてくれることになっていたのも、しばらく救護室で待機していました。瑞穂パロマ会場の救護室は、ほぼ完璧な医療設備が整えられておりました。この差は歴然で、普段医師や看護師が来ても、確かに手ぶらでこられても問題ないほどだと実感しました。よく野球場なども行きますが、救護室はある程度整っています。また大きな大会を行える会場ほどしっかりしているし、そうでない場所は、何もないと再認識しました。

以上 名古屋グランドボウル会場医療ボランティアを経験しての報告です。